新楽団の告知

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

The 145th Subscription Concert

東京ニューシティ管弦楽団 第145回定期演奏会

2022年1月23日(日)14:00開演　東京芸術劇場コンサートホール

主催：一般社団法人 東京ニューシティ管弦楽団　特別協賛：ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社

助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人 日本芸術文化振興会

協力：日本音楽財団 NIPPON MUSIC FOUNDATION　特別協力：Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

後援：在日ルーマニア大使館 EMBASSY OF ROMANIA in Japan

Members

東京ニューシティ管弦楽団　Tokyo New City Orchestra

楽団員及び本日の客演奏者

首席コンサートマスター
執行 恒宏

第1ヴァイオリン
有村 実保子
上田 博司
小澤 郁子
河合 晃太
剣持 由紀子
寺田 久美子
中村 朱見
小泉 百合香
小佐井 真希
田口 雅人
林 千夏

第2ヴァイオリン
◎城戸 喜代
伊東 佑樹
髙階 久美子
七海 仁美
秀川 みずえ
椛島 大樹
齋藤 純子
相良 おり絵
佐藤 茜
吉田 敬美

ヴィオラ
◎鈴村 大樹
浅川 文
錦田 知子
沼田 由恵
小野 美子
千年 美菜子
古田 敦子
吉満 太志

チェロ
◎松本 ゆり子
関根 優子
町田 正行
松谷 明日香
望月 直哉
高群 輝夫
平山 正三
村上 咲依子

コントラバス
★鷲見 精一
岡田 友希
飯田 克哲
澤井 慶
杉本 友輝
寺田 和正

フルート
☆荒川 洋
立住 若菜
野勢 寛樹

オーボエ
○石井 智章
荒木 良太
沖 響子

クラリネット
○西尾 郁子
松元 香

ファゴット
○藤田 旬
松里 俊明

ホルン
◇小田原 瑞輝
◇佐久間 優
古谷 幸子
土谷 優太
橋本 宰

トランペット
○依田 泰幸
★守岡 未央
後藤 慎介
鈴木 知佳

トロンボーン
○渡辺 善行
武内 紗和子

バス・トロンボーン
恵藤 康充

チューバ
若林 毅

ティンパニ
○神戸 光徳

打楽器
新田 初実
狩野 もなみ
堀 正明

ハープ
篠田 恵里
太田 文

ピアノ
中原 達彦

◎特別首席
☆契約首席
○首席
◇副首席
★客演首席

ステージマネージャー
萩庭 光
青木 勝弘

ライブラリアン
橋本 萌
河合 晃太
武居 康大

Program

第145回定期演奏会　The 145th Subscription Concert

指 揮：**曽我 大介** Conductor : Daisuke Soga

ヴァイオリン：**吉田 南** Violin : Minami Yoshida （ソリストが変更になりました。）

コンサートマスター：**執行 恒宏** Concertmaster : Tsunehiro Shigyo

日本・ルーマニア外交関係樹立100周年

コンスタンティン・シルヴェストゥリ Constantin Silvestri (1913-1969)

トランシルヴァニア地方のルーマニア民俗舞曲 作品4 (1929)
Jocuri Populare Româneşti Din Transilvan op.4 (1929)
第1部 ビホール地方の民謡（バルトークの採譜による）
Partea a I-a (Bihorene) : După culegerea Dlui Béla Bartók
I. Cine'n Lume N'are–Beiuş
II. Marunţelul – Beiuş
III. Marunţelul – Delan
IV. Marunţelul – Leleşti
V. Cântec de joc–Beiuş

アントニン・ドヴォルザーク (Antonín Leopold Dvořák (1841-1904)

ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53、B.108 (1879、1880年改訂)
Koncert pro housle a orchestr a moll, op.53 (1879, revize 1880)
I. Allegro ma non troppo
II. Adagio ma non troppo
III. Finale : Allegro giocoso, ma non troppo

〈休憩20分〉 intermission [20min.]

ジョルジュ・エネスク George Enescu (1881-1955)

管弦楽組曲 第1番 ハ長調 Op.9より 第1楽章「ユニゾンの前奏曲」
Din Suită de Orchestră nr. 1 în Do major, Op.9 (1903) partea a I-a "Prélude a l'unisson"

ルーマニア狂詩曲 第2番 ニ長調 Op.11–2 (1901-2)

ルーマニア狂詩曲 第1番 イ長調 Op.11–1 (1901-2)
Rapsodia română nr. 2 în Re major Op.11-2, nr. 1 în La major Op.11-1 (1901-2)

主催：一般社団法人 東京ニューシティ管弦楽団　特別協賛：ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：日本音楽財団 NIPPON MUSIC FOUNDATION　特別協力：Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
後援：在日ルーマニア大使館 EMBASSY OF ROMANIA in Japan

●未就学児のご入場はご遠慮ください。●やむを得ず、出演者・演目が変更になる場合がございます。ご了承ください。●お願い：演奏中は、携帯電話・アラーム付時計等は演奏の妨げにならないようご配慮ください。他のお客様のご迷惑になる様なご行為は慎んでいただきますようお願い申し上げます。

Profile

曽我 大介 ●指揮者　Daisuke Soga ● Conductor

桐朋学園大、ウィーン音大等で、B.ハイティンク、G.シノーポリ、I.ムーシン、U.ラーヨビッチ、小澤征爾、田中雅彦、I.ケプテア、森正の諸氏に学び、1989年ルーマニア国立音楽院在学中にルーマニアでデビュー。1993年ブザンソン、1998年コンドラシンの二大指揮者コンクールで第1位。以降日本はもとより、ヨーロッパ、南米を中心に世界各地のオーケストラに客演を重ねている。

ルーマニアとは特に関係が深く、ブカレスト、「ジョルジュ・エネスク」フィルをはじめ、各地のオーケストラや劇場に定期的に客演、ブラショフ・オペラではモーツァルトのダ・ポンテ三部作の共演を完結、2017年11月にはブラショフ・フィル日本公演の指揮者を務めた。日本とルーマニアとの相互理解に尽力してきた長年の功績により、令和3年度外務大臣表彰受賞。今年はエネスクフィル、ダラス交響楽団等への客演が予定される。ルーマニア国立放送響首席客演指揮者、大阪シンフォニカー響（現・大阪交響楽団）音楽監督、ブラジル・ロンドリーナ音楽祭首席指揮者などを歴任し、現在東京ニューシティ管弦楽団正指揮者。世界各地の音楽祭出演や講習会の講師、コンクールの審査員、また近年は作曲家としても活躍、その作品は世界各地で広く演奏されている。

著書として『ベートーヴェンのトリセツ』（音楽之友社、2021年新刊）、小説仕立てのウィーンカルチャーガイド、『ベートーヴェン、21世紀のウィーンを歩く』（集英社、2021年新刊）、『聴きたい曲が見つかる!クラシック入門〜毎日が満たされるシーン別名曲』（技術評論社）等がある。

ルーマニア・ブラショフ市とブラジル・ロンドリーナ市より、名誉市民の称号が贈られている。

オフィシャルホームページ www.soga.jp/

吉田 南 ●ヴァイオリン　Minami Yoshida ● Violin

1998年奈良県生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋女子高等学校音楽科卒業後は桐朋学園大学音楽学部ソリストディプロマコースを学費等全額免除特待生として修了した。現在、学長奨学金を得てニューイングランド音楽院、特別特待奨学生として東京音楽大学アーティストディプロマコースに在籍し、ミリアム・フリード、原田幸一郎、竹澤恭子の各氏に師事している。これまでに、2014年日本音楽コンクール1位及び5つの特別賞受賞の他、2015年シベリウス国際ヴァイオリンコンクール、2016年モントリオール国際音楽コンクール、2021年ハノーファー・ヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリンコンクールなど数々のコンクールで入賞を果たしている。12歳で大阪フィルとの共演を皮切りに、国内のオーケストラ以外にも、ヘルシンキ・フィル、フィンランド放送響、モントリオール響など多数の著名なオーケストラと共演している。また、ボストン、シカゴ、ニューヨーク、テキサスの他、カナダ、ドイツ、オランダ、ベルギー、フィンランド、シンガポール、韓国、台湾など様々な国や地域で演奏を行っている。使用楽器は日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1716年製ヴァイオリン「ブース」。

●ストラディヴァリウス1716年製ヴァイオリン「ブース」：1855年頃にイギリスのブース夫人が所有していたため、現在の名が付けられている。1931年にアメリカの名高いヴァイオリン奏者ミッシャ・ミシャコフ（1896〜1981）の手にわたり、1961年にはニューヨークのヘンリー・ホッティンガー・コレクションの一部となった。音色の美しさ、音の力強さにおいて知名度が高く、保存状態も優れている

アスペン・ホームページ www.aspen.jp/artist

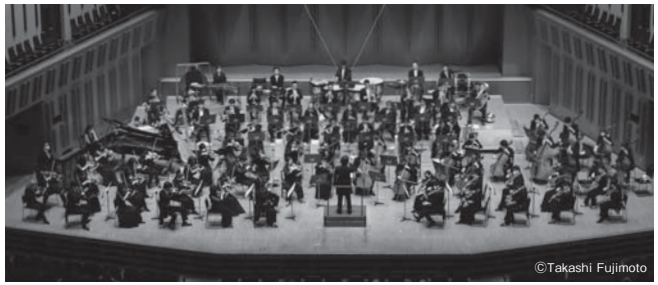
東京ニューシティ管弦楽団　Tokyo New City Orchestra

1990年設立。定期演奏会・特別演奏会等の自主演奏会の他、オペラ、バレエ、音楽鑑賞教室、レコーディング、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動している。定期演奏会ではクリスチャン・ツィメルマン他著名な音楽家と共演。オペラでは二期会、藤原歌劇団の公演の他、スコット、パヴァロッティ、カウフマンなど世界で活躍するオペラ歌手との共演も数多く、堅実で音楽性溢れる演奏は高く評価されている。バレエでは国内の主要バレエ団の他、パリ・オペラ座バレエ団、英国バーミンガム・ロイヤルバレエ団、ボリショイ・バレエ、マリインスキー・バレエ、アメリカン・バレエ・シアター（ABT）、サンクトペテルブルグ・アカデミー・バレエ等海外のバレエ団の日本公演に数多く出演し、質の高い演奏に信頼を得ている。

また2017年からポップス定期演奏会を開催し、アニメ・ゲーム音楽など各界のアーティストと共演。新たな分野に挑戦を続けている。NHKテレビドラマ「坂の上の雲」や映画「悪人」の音楽収録を手掛けるほか、2017年には東京2020参画プログラム「文化オリンピアードナイト」に起用されるなど、さらに活動の場を広げている。

2018年からは楽団誕生の地である練馬で定期演奏会を開催し、地元に根差した活動も行っている。2022年4月には飯森範親が音楽監督に就任し、さらに楽団名を「パシフィック フィルハーモニア東京」へ改称して、更なる飛躍を目指す。2007年に中国上海公演、2009年にベトナム公演を行った。

現在、ミュージック・アドヴァイザー飯森範親、エグゼクティブ・コンダクター内藤彰、正指揮者曽我大介。公益社団法人日本オーケストラ連盟正会員。
http://tnco.or.jp



PROGRAM NOTES

曽我 大介 Daisuke Soga（指揮者）

コンスタンティン・シルヴェストゥリ（Constantin Silvestri,1913-1969）
トランシルヴァニア地方のルーマニア民俗舞曲 作品4（1929）
Jocuri Populare Româneşti Din Transilvan op.4（1929）

第1部　ビホール地方の民謡（バルトークの採譜による）
Partea a I-a（Bihorene）：După culegerea Dlui Béla Bartók

演奏時間　約6分

コンスタンティン・シルヴェストゥリは早熟の音楽家で1930年、17歳で独創的な自作、《プレリュードとフーガ》を指揮して指揮者としてデビュー。ブカレスト放送交響楽団、ジョルジュ・エネスクフィル、ルーマニア国立オペラの首席指揮者・音楽監督の地位を歴任した。イギリスに移住したあとのドラマティックな演奏録音の数々により、その類稀なる指揮者としての能力を、今なお窺い知ることができる。一方作曲家としては、1958年に母国を後にイギリスに活動の拠点を移したことから、自演の録音を除いてその作品の全貌を知られていなかったが、死後半世紀を経た今、ピアノ曲を中心にその作品の出版・録音が進められ、再評価されつつある。

ルーマニア民俗舞曲はわずか16歳の時の管弦楽作品。バルトークが発明されたばかりのエジソン蓄音器を携えて、トランシルヴァニア地方の村々で採譜してきた民謡を元に作曲されている。本作品の原曲が採譜された、ビホール地方はルーマニア西北端に位置する。バルトークの生地からも遠くなく、独自の民謡文化が今なお根付いている。

本作品は1分ほどの小品を5曲並べた全部で6分程の短い作品だが、独創的なハーモニーや管弦楽の扱いで、作曲者初の管弦楽作品とは思えぬ充実したサウンドが楽しめる。

参考文献：同曲2台ピアノ版序文（Grafoart, Bucureşti 2018）

アントニン・ドヴォルザーク（Antonín Leopold Dvořák, 1841-1904）
《ヴァイオリン協奏曲 イ短調》作品53、B.108（1879,1880年改訂）
Koncert pro housle a orchestr a moll, op. 53（1879, revize 1880）

第1楽章　アレグロ・マ・ノン・トロッポ イ短調 4/4（続けて）
第2楽章　アダージョ・マ・ノン・トロッポ ヘ長調 3/4 自由な3部形式
第3楽章　アレグロ・ジョコーソ、マ・ノン・トロッポ（フィナーレ）イ長調 3/8 ロンド形式

演奏時間 約32分

ドヴォルザークはピアノ、ヴァイオリン、チェロのために協奏曲を遺しているが、あまりにも有名なチェロ協奏曲Op.104に比べ、他のものは幾分影が薄い。

ヴァイオリン協奏曲はチェロ協奏曲にくらべ、チェコの民族色がより濃く現れる一方、これから次々と傑作を生み出してゆく時期の、作曲家としての熟達した技法が作品のなかに垣間見られる。直接の作曲動機はブラームスの親友であった、当時の傑出したヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムの勧めによる。作曲年（1879年）1月にブラームスの協奏曲がヨアヒムにより初演されていることも、この作品を生み出す上で大きな刺激になっているであろう。

形式的にはブルッフの協奏曲の影響が感じられ、**第1楽章**はブルッフと同様、全体の序奏のような位置づけにあり、ドラマチックなオーケストラ全体の開始に続くヴァイオリンで奏でられる第1主題が、第1楽章を通して自由に展開される。ごく控えめなカデンツァの後のエピローグから続けて演奏される**第2楽章**は、ブラームスを想起させる深い情感を湛えている。ヘ長調の第1主題に対し、ヘ短調のドラマチックな第2主題はヴァイオリンのオクターブで提示され、コントラストを生む。第1主題が回帰したあとも、オーケストラにより、この主題は短く回帰される。**第3楽章**はベートーヴェン以来の定型である、3拍子のロンド。チェコの舞曲、フリアント（ヘミオラを特色とする舞曲）が主要手段として使われている。中間主題にはニ短調2/4拍子で、ドゥムカ（スラブの哀歌）風の旋律が登場。主要主題とのコントラストを形成する。ドヴォルザークらしいチェコ風の情感と、ヴァイオリニストの技巧が同時に楽しめる傑作である。

参考文献：作曲家別名曲解説ライブラリー⑥ ドヴォルザーク（音楽之友社1993）

民族衣装を着飾った少女たち（ブラショフ市）

PROGRAM NOTES

ジョルジュ・エネスク（George Enescu, 1881-1955）
管弦楽組曲 第1番 ハ長調 Op.9より 第1楽章〈ユニゾンの前奏曲〉

Din Suită de Orchestră nr. 1 în Do major, Op.9（1903） partea a I-a “Prélude a l’unissson”

演奏時間　約6分

ジョルジュ・エネスクはルーマニアを代表する音楽家で、ルーマニアでは国家を挙げたエネスク音楽祭が2年に1回行われて、ブカレストのフィルハーモニーはエネスクの名を冠している。また、ルーマニア国立銀行発行の5レイ*紙幣はエネスクの肖像が使われている。

神童として幼年時から才覚を現したエネスクは、卓越したヴァイオリニスト、ピアニスト、指揮者、作曲家として活躍した。8歳でウィーン音楽院に入学、卒業後、1895年からはパリ音楽院に学ぶ。

音楽院の同門にラヴェルがいるが、彼の回想にエネスクの驚異的な音楽家としての能力を偲ばせるエピソードがある。音楽院の作曲科の仲間たちが連れ立ってストラヴィンスキーの《春の祭典》の通し稽古を聴きに行った帰り、ラヴェル邸に立ち寄ったエネスクは、たった一度聴いただけの〈いけにえの踊り〉を暗譜していて、ピアノで弾いてみせた、というものである。とにかく音楽の神（ミューズ）に見出されたような人物だったようである。国際的な音楽家として活躍する一方、その生涯をルーマニア音楽界の振興に捧げるが、共産党政権によりパリに追放されそこで生涯を閉じた。

作曲家としての初期作品の作風は、フランスの当時の流行の影響と、ルーマニア民族作曲家としての自負が感じられる。本日演奏される組曲第1番の第1楽章、〈ユニゾンの前奏曲〉はヴァィオリン、ヴィオラ、チェロとティンパニだけで一つのメロディのみが奏でられる独創的な一曲。ユニゾンの開始はエネスクの初期作品を特徴付ける手法であり、この曲以外にも八重奏曲（1900）、本日も演奏される狂詩曲第2番（1901）などにもユニゾンの開始が見られる。このアイディアからは、単音と言う一つの細胞から、作品の世界が無限に広がって行くように感じられる。

まるで弦の名手の即興にも感じられるこの前奏曲。出だしの決然とした第1主題と対照的な甘い第2主題がまず提示され、その後自由な展開を見せるが、ヴァイオリンの開放弦（G-D-A-E）をメロディの響きの基調としているため、短音ながら驚くほど豊かな響きに聞こえる。おそらく芸術劇場のコンサートホールでは、残響とメロディの溶け合いがすばらしい効果を呼ぶに違いない。また、ところどころ聴かれる装飾音符がルーマニア民謡風の「こぶし」を思わせる。

コーダに入るとティンパニの連打音が弦楽器の響きを支えるために突如侵入する。このティンパニがドラマの盛り上がりに一役買う。やがてこの楽章はティンパニ2回の*pp*のパッセージで幕を閉じる。実にユニークな一曲だ。

*レウLeu（複数形 レイLei）ルーマニアの通貨単位。

参考文献：「ラヴェル その素顔と音楽論」 マニュエル・ロザンタール著
マルセル・マルナ 編集、伊藤 制子 訳（春秋社 1998）

ルーマニア狂詩曲が初演されたブカレスト・アテネ音楽堂
「ジョルジュ・エネスク」フィル定期演奏会、筆者指揮（2015）
Photo © RoZa Zah

ブカレスト・アテネ音楽堂外観

PROGRAM NOTES

ジョルジュ・エネスク（George Enescu, 1881-1955）

ルーマニア狂詩曲 第2番 ニ長調 Op.11-2, 第1番 イ長調 Op.11-1（1901-2）

Rapsodia română nr. 2 în Re major, nr. 1 în La major Op.11-1（1901-2）

演奏時間　約22分（2曲合計）

エネスクの代表作であり、ルーマニアの第2の国歌とも呼べる本作品は、エネスコがまだ20-21歳だったときに作曲されている。にもかかわらず、19世紀終わりから20世紀初頭に作曲された他の国民楽派の作品にくらべ、オーケストレーションや演奏注釈などの点でより精緻に作曲されている。作曲家自身が卓越したヴァイオリニストであったこともあり、特に第1番でヴァイオリンの技巧に工夫が凝らされている。

初演は1903年2月23日ブカレストのコンサートホール、アテネ音楽堂において行われ、エネスクはこのときから第2番を第1番に先立って演奏することを常とした。作曲のコンセプト自体も第2番が第1番のプロローグと位置づけされているようにも感じる。

作曲当時ブカレストのダンスホールやホテルなどでは伝承音楽や、ロマの音楽がもてはやされており、エネスクは音楽家たちとの交流のなかで、ルーマニアの民謡を知り、巧みなオーケストレーションを用いて、本作品でメドレーとして編み上げていった。

その民謡のなかにはホーラ、スルバ、ドイナという名前を持つ、主に二拍子系のルーマニアな固有のダンスも含まれている。第2番が羊飼いたちと自然や精神的な要素を歌い上げた歌をベースとしているのに比べ、第1番は華々しい踊りの曲をベースとしている。

〈 〉内は使われている民謡の曲名

第2番はまず、**〈ポンピエールのスルバ〉**が弦のユニゾンで演奏される。そしてルーマニアの歴史に名を残すシュテファン大王の伝説を歌った**〈黒い岩の上〉**が厳かに、弦楽器の合奏、オーボエ、そしてオーケストラトゥッティと三回繰り返される。中間部では羊飼いの笛とオーボエが呼び合うような**〈羊の乳〉**、続けて人々の精神の内面と不安を歌うドイナ、**〈おお！狼が私を食べようとしている〉**がイングリッシュホルンで奏される。不安を打ち破る勝利の宣言のように、再び**〈黒い岩の上〉**と**〈スルバ〉**が同時に決然と戻ってくる。曲の終わりにはエピローグ的に、**〈長いブーツを履いた田舎の人〉**が突如、村に楽士の訪れを告げるように、ヴィオラのソロで演奏される。最後に第1番の予告となる**〈ひばり〉**が一条の風が吹くように一瞬演奏され、祭りの訪れを期待させ、フルートの音が遠くに消えてゆく。

第1番の冒頭は楽天的な歌、**〈1レウあるから飲みにゆこう〉**が、クラリネットが口火を切る形で演奏を始める。伴奏に回るハープのトレモロはルーマニアの民族楽器、「ゾブラ」（リュートの一種）の模倣だ。弦楽器が鮮やかな**〈ドブリカのホーラ〉**を奏し、春を待ちわびる重苦しさを歌った**〈ムグル（つぼみ）〉**に続く。テンポが上がると**〈モーリのホーラ〉**、**〈良いご旅行を〉**が続き、全体のクライマックスに差し掛かると、ルーマニア舞曲で一番有名な**〈ひばり〉**がシンバルの響きとともに鮮やか現れる。**〈ひばり〉**の合間には**〈木苺の硬貨〉**が巧みに織り込まれる。

いったんオーケストラが止み、ハープの響きだけが残ると、**〈半分の踊り〉**が管楽器でエピローグ的に演奏される。最後に再び曲はテンポを上げ、**〈ひばり〉**が回帰し、華々しいフィナーレへと向かう。

参考文献："Capodopere enesciene" Pascal Bentoiu（Editura muzicală București,1984）

ルーマニアのトランシルヴァニア地方の羊飼い

賛助会員

【法人会員】
株式会社 MRSホールディングズ
株式会社 東悠エステート
株式会社 明空社
株式会社 利 菴

【個人会員】
西村 昭比古　芳賀 孝雄　松原 髙司　横山 佳雄
他2名

（五十音順）（敬称は省略させていただきます。）

正会員

【法人会員】
株式会社 M&Nホールディング
株式会社 東京合唱協会
株式会社 シルバーバックス・プリンシパル　他12社

【個人会員】
川添 英起　小出 誠二　斉藤 園子
松原 髙司　山川 奈緒子　他3名

（敬称は省略させていただきます。）

一般社団法人 東京ニューシティ管弦楽団

役員
理事長：日野 洋一　特別顧問：中野 雄　名誉会長：三善 清達
専務理事：齋藤 正志　理事：相羽 利昭　理事：川添 英起　理事：木村 宗慎
理事：後藤 健太郎　理事：佐藤 幹雄　理事：關 昭太郎　理事：高橋 克英
理事：田島 裕一　理事：九十九 章之　理事：野老 覚　理事：内藤 彰
理事：吹浦 忠正　理事：松原 髙司　理事：藪西 正道　理事：山川 奈緒子
監事：荒木 達男

（理事は五十音順）

ミュージック・アドヴァイザー：飯森 範親　エグゼクティブ・コンダクター：内藤 彰
正指揮者：曽我 大介　総合プロデューサー：藪西 正道
首席コンサートマスター：執行 恒宏　ミュージック・パートナー：新田 孝

事務局　楽団長：齋藤 正志　事務局長：菅沼 暢夫　事業部長（楽団主幹兼任）：山賀 洋介
企画制作：木村 有美子　販売促進：石橋 智尋　経 理：立花 純也
事 業：橋本 萌　武居 康大　青木 勝弘

ディレクター　マーケティングディレクター：小田 弦也　ステージディレクター：多戸 章人

ご支援について

東京ニューシティ管弦楽団への寄付金について、公益社団法人である企業メセナ協議会を通していただくと、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置が受けられます。 詳しくは、東京ニューシティ管弦楽団パトロネージュ担当までお問合せください。Tel:03-5933-3222

Tokyo New City Orchestra Subscription Concerts

東京ニューシティ管弦楽団 2021年度定期演奏会

《会場：東京芸術劇場 コンサートホール》

●第146回定期演奏会

2022年3/5〔土〕14：00開演　発売中

指揮：秋山 和慶　ヴァイオリン：竹澤 恭子

フィナーレを飾る

リスト
交響詩「レ・プレリュード」
ブラームス
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77
バルトーク
管弦楽のための協奏曲

チケット料金（全席指定）
チケット１回券SS席10,000円 S席6,500円 A席5,000円 B席4,000円 C席3,000円

ポップス 第9回定期演奏会

2022年2月13日(日) 会場：東京芸術劇場コンサートホール　詳細は後日発表

■チケットのお申し込み お電話またはインターネットでお申し込みいただけます。

チケットオフィス：**03-5933-3266**（平日10～18時）　web予約：**http://www.tnco.or.jp/ticket**

※出演者・曲目は変更になる場合がございます。

速報!!

パシフィック フィルハーモニア 東京
PACIFIC PHILHARMONIA TOKYO

第147回定期演奏会

4/8[金] 開場18：00 開演19：00　チケット発売：1月18日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール

©K.Miura

指揮：鈴木 秀美
ハイドン／交響曲第103番 変ホ長調「太鼓連打」
ベートーヴェン／交響曲第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

第148回定期演奏会 《音楽監督就任記念》

5/11[水] 開場18：00 開演19：00　チケット発売：2月8日（火）
会場：サントリーホール

©山岸 伸

©Paul Tsang

指揮：飯森 範親
ピアノ：牛 牛　尺八：藤原 道山　エレキヴァイオリン：髙木 凜々子
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23
ショスタコーヴィチ／交響曲第1番 ヘ短調 作品10
メイソン・ベイツ／マザーシップ（本邦初演）

第149回定期演奏会

6/19[日] 開場13：00 開演14：00　チケット発売：3月8日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール

©Eric Richmond

©Takashi Okamoto

指揮：ステファン・アズベリー　チェロ：横坂 源
オスバルド・ゴリホフ／弦楽アンサンブルのための「ラスト・ラウンド」
オスバルド・ゴリホフ／チェロ協奏曲「アズール」
コープランド／交響曲第3番

第150回定期演奏会

7/30[土] 開場13：00 開演14：00　チケット発売：4月19日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール

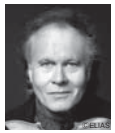
©山岸 伸

©Mario Acosta

指揮：飯森 範親
ソプラノ：森谷 真理　バリトン：大西 宇宙
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「前奏曲と愛の死」
ベルク／抒情組曲（弦楽合奏版）
ツェムリンスキー／抒情交響曲 作品18

第151回定期演奏会

9/10[土] 開場13：00 開演14：00　チケット発売：6月7日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール


©三浦興一

指揮・ヴァイオリン：オーギュスタン・デュメイ
ベートーヴェン／ロマンス第2番 ヘ長調 作品50
モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K.216
ベートーヴェン／交響曲第7番 イ長調 作品92

チケット料金 ●東京芸術劇場／SS：8,500円 S：7,000円 A：5,500円 B：4,500円 C：3,500円 ●サントリーホール／SS：9,500円

■チケットのお申し込み お電話またはインターネットでお申し込みいただけます。

2022年度定期演奏会ラインナップ 決定!!
SUBSCRIPTION CONCERTS 2022-2023 SEASON

第152回定期演奏会

10/4[火] 開場18：00 開演19：00　チケット発売：6月21日（火）
会場：サントリーホール

©山岸 伸

指揮：飯森 範親　ピアノ：角野 隼斗　合唱：東京混声合唱団
トーマス・アデス／ピアノと管弦楽のための協奏曲（本邦初演）
ホルスト／組曲「惑星」作品32

第153回定期演奏会

11/12[土] 開場13：00 開演14：00　チケット発売：8月2日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール

©Yoshinobu Fujii

指揮：秋山 和慶　チェロ：新倉 瞳
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
エルガー／チェロ協奏曲 ホ短調 作品85
ニールセン／交響曲第4番 作品29「不滅」

第154回定期演奏会

2023年1/28[土] 開場13：00 開演14：00　チケット発売：10月18日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール

©Fabio Parenzan

指揮：園田 隆一郎　ヴァイオリン：ヤン・インモ
ケルビーニ／歌劇「デモフォン」序曲
パガニーニ／ヴァイオリン協奏曲第1番 ニ長調 作品6
マルトゥッチ／夜想曲第1番 作品70
ビゼー／組曲「ローマ」

第155回定期演奏会

2023年3/4[土] 開場13：00 開演14：00　チケット発売：12月6日（火）
会場：東京芸術劇場 コンサートホール

©山岸 伸

©Mayuko Kamiya

指揮：飯森 範親　ヴァイオリン：神尾 真由子
ヴィトマン／ヴァイオリン協奏曲第1番（本邦初演）
ブルックナー／交響曲第4番 変ホ長調（ノヴァーク版 1878/80）

★第5回練馬定期演奏会

6/4[土] 開場13：15 開演14：00　チケット発売：2月15日（火）
会場：練馬文化センター 大ホール

©山岸 伸

©Ariga Terasawa

指揮：飯森 範親　ピアノ：牛田 智大
モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」序曲
ショパン／ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11
エルガー／行進曲「威風堂々」第1番 ニ長調
ビゼー／「アルルの女」第2組曲
ラヴェル／ボレロ

S：8,000円 A：6,500円 B：5,000円 C：4,000円 ●練馬文化センター／SS：8,000円 S：6,000円 A：4,500円 B：3,500円 C：2,500円

チケットオフィス：**03-5933-3266**（平日10～18時）　web予約：**http://www.tnco.or.jp/ticket**

※出演者・曲目は変更になる場合がございます。